

平成29年度決算に係る

定期監査調書

平成30年4月

農業試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況	1 頁
3	組織及び業務調べ	1 頁
4	職員の定員、現員調べ	1 頁
5	役付職員の調べ	1 頁
6	主な事業に関する調べ	2 頁
7	収入証紙取扱額調べ	5 頁
8	収入事務処理状況調べ	5 頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 諸収入	
	(6) 現金の取扱状況	
9	収入未済額調べ	7 頁
10	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	7 頁
11	不納欠損額調べ	7 頁
12	負担金、交付金及び委託料支出状況調べ	8 頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
13	工事請負費調べ	9 頁
14	財産に関する調べ	10 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
15	財産の貸付及び使用許可調べ	14 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
16	借受不動産明細調べ	14 頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	15 頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
18	寄附物件の受納状況調べ	16 頁
19	備品の処分状況調べ	16 頁
20	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	16 頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
21	事業別予算執行状況調べ	17 頁
22	農業機械の管理状況	19 頁
23	生産物(品)に関する調べ	20 頁
24	試験研究調査事業別実施状況調べ	21 頁
○	意見・要望等	36 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1)指摘事項 該当なし

(2)監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
農業試験場	作物研究室	(1)主要農作物の育種及び栽培に関すること (2)主要農作物の原種及び原原種に関すること (3)農業経営技術の改善に関すること (4)水田機能の維持・保全に関すること (5)農業機械化に関すること (6)水田転作野菜に関すること
	環境研究室	(7)土壌肥料及び土壌保全に関すること (8)主要農作物の病害虫に関すること (9)土壌、肥料等の分析に関すること
	有機・特別栽培研究室	(10)有機・特別栽培の生産技術に関すること

4 職員の定員、現員調べ

(平成30年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	30.4.1 現在	29.4.1 現在	30.4.1 現在	29.4.1 現在	30.4.1 現在	29.4.1 現在	30.4.1 現在	29.4.1 現在	
定員	1	1	18	18	4	5	23	24	
現員	()	()	()	(1)	()	()	()	()	派遣:(株)光洋
	1	1	18	18	4	5	23	24	
	(1)	(1)	(6)	(6)	()	()	(7)	(7)	病害虫防除所兼務
過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	0	0	17	16	18	17	農業技術員17名 事務員1名

5 役付職員の調べ

(平成30年4月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	米山 肇		0	(病害虫防除所)
作物研究室長	橋本 俊司	4	0	出納員
環境研究室長	長谷川 優	3	0	(病害虫防除所)
有機・特別栽培研究室長	前田 英博	4	0	
課長補佐	前田 浩一		0	出納員、(病害虫防除所)

6 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	一般財源	その他
水稲新品種育成試験	2,373			2,373
鳥取元気プロジェクト	(2) 産業を元気に	元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行		
元気づくり総合戦略	(2) 農林水産業	農林水産業の活力増進		

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

- ・ 国、他県育成品種の採用だけでは県内生産者が求める「鳥取県ブランド品種」育成に十分応えられず、県独自品種の開発を推進することで米の有利販売と県内農業の活性化を図る。

(イ) 事業の実施状況

- ・ 新規に72組合せの人工交配を実施した。
- ・ F1、F2、F3、F4について、それぞれ約80組合せ、計5万個体の初期世代を養成した。
- ・ F5以降の世代について、705系統を養成し、収量性、品質、耐病性等の評価に基づき今後選抜することとした。
- ・ F6以降の世代について、極早生、早生、中生、糯、酒米について計140系統を栽培し、今後、収量性、品質、食味等の評価に基づき選抜することとした。

※ F1とは雑種第1代を示す。

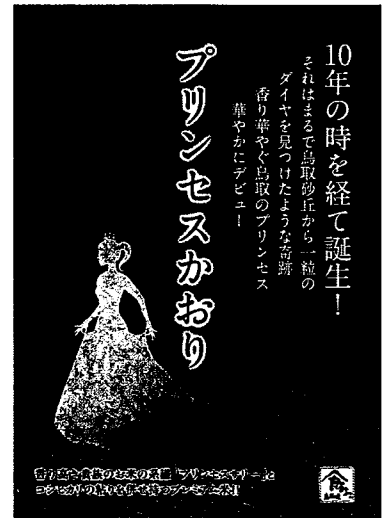
雑種第5代であるF5で形質が安定したものを選抜し固定化、その後形質を評価する。

イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・ 「特になし」

ウ 成果

- ・ 「プリンセスかおり」を平成29年9月1日、品種登録申請した。品種名の公表をきっかけとして、広く報道で取り上げられるとともに、各地で「プリンセスかおり」フェアが開催される等、「食のみやこ鳥取県」の知名度向上に貢献した。
- ・ 「鳥系酒105号」を育成し、職務育成品種審査会で品種登録することが承認された。本系統は、酒造組合において将来の本県の顔となる酒造好適米として育てる品種と認識の上、複数業者から平成30年以降の醸造希望が寄せられた。
- ・ 「鳥系93号」を県奨励品種に採用する予定となった。本系統は、食味の良いプレミアム主食用品種の位置付けで、本県のブランド米とすべく農業者による応援隊が結成される等、大いに注目された。



エ 課題

- ・ 上記品種はいずれも、品種育成の地道な長年の取組がようやく実を結んだものである。これまでのところ、品種育成にかかる予算規模等から、備品の確保や外部機関への委託による食味や加工適性の評価、DNAマーカーによる選抜手法が十分に活用できておらず、工夫を重ね、さらに品種開発の迅速化、効率化を目指したい。

6 主な事業に関する調べ

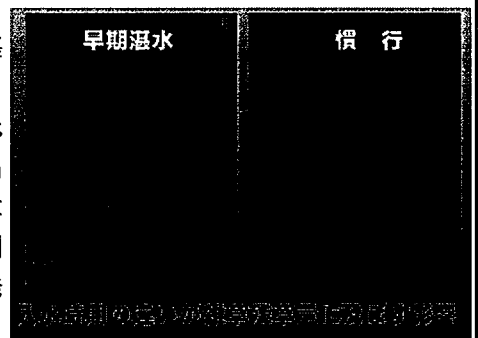
(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	一般財源	その他
きぬむすめの等級・食味の高位安定化栽培技術の確立	1,937			1,937
鳥取元気プロジェクト	(2)産業を元気に	元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行		
元気づくり総合戦略	(2)農林水産業	農林水産業の活力増進		
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
・ 水稲主力品種「きぬむすめ」の市場評価の維持・向上による生産者の所得向上を図るため、特に品質、食味が低位な事例に関し、高位安定化栽培技術を確立する。				
(イ) 事業の実施状況				
(1) 現地実態調査・解析				
1) 平成28年に現地調査を実施したほ場から、品質・食味が低位な8ほ場を選定し、生育、収量、品質および病害(ごま葉枯病)発生程度について年次変動の把握を行った。				
2) 平成28年の調査結果から判明した低食味ほ場において、以下の改善試験を実施した。				
①排水不良田での窒素施肥改善試験(鳥取市青谷町、1ほ場)				
②鉄成分不足田での鉄資材施用試験(三朝町、1ほ場)				
(2) 品質・食味の高位安定化栽培技術の確立				
施肥、病害虫防除等の適期管理に活用できる生育指標作成を目的として、以下の試験を実施した。				
1) 平成28年に作成した出穂期推定モデル式の精度について現地検証(県内16地点)				
2) 栄養診断で用いる葉色と食味との関係を把握するための栽培試験(場内)				
イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
現地実態調査・解析では、平成28年度の調査結果(200地点サンプル)から、品質低下がみられる地域を絞り、試験実施したことにより、少ない試験ほ場数(10筆)で効率的に問題点の改善策検討が実施できた。				
ウ 成果				
(1) 現地実態調査・解析				
・ 排水不良田における窒素施用量(基肥+穂肥)改善試験では、1~2割の減肥により、玄米タンパク質含有率が低下し、収量に影響なく食味向上に繋がった。この減肥により肥料コストが低減し、さらに食味向上による県産米のブランド化を支援できると考えられた。				
・ 鉄成分不足田における鉄資材の施用試験により、ごま葉枯病が抑制されるとともに増収効果(500kg/10a→570kg/10a, 14%増)がみられた。				
(2) 品質・食味の高位安定栽培技術の確立				
・ 施肥や病害虫防除の適期作業の決定に必要な出穂期推定モデル式を作成した(誤差は1.6日程度)。推定した生育情報(出穂期、収穫適期)は、試行的に農試HPで公開している(平成29年度成果情報化)。出穂期等の推定は生産者、JAおよび関係機関へ情報提供しており、病害虫防除(特に無人ヘリ)、集荷施設の稼働計画策定に役立てられた。				
エ 課題				
・ 「きぬむすめ」では、鉄成分の不足、ごま葉枯病の多発等、発生地域の拡大が今後懸念される。対策としての鉄資材の施用量について早急に検討する必要がある(平成30年度新規課題で対応予定)。				

6 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
「ゆうきの玉手箱(忒の重)」技術確立 ☆チャレンジ編	2,661			2,661
鳥取元気プロジェクト	(2)産業を元気に	元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行		
元気づくり総合戦略	(2)農林水産業	農林水産業の活力増進		
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<ul style="list-style-type: none"> 主に水稲・大豆の有機栽培を対象として安定生産及び栽培面積拡大につながる取り組みやすい技術メニューを、他産業とも連携しつつ確立・拡充し、「鳥取県有機・特別栽培推進計画」の着実な達成に寄与する。 加えて、有機栽培に適応する品種および品目を見出し、「食のみやこ鳥取県」を推進する旗頭となるよう、特色ある有機農産物の生産拡大に資する。 				
(イ) 事業の実施状況				
<ul style="list-style-type: none"> イトミミズを利用した除草対策の確立のため、イトミミズがつくる膨軟層の抑草メカニズムを解明し、効果を確認した。そのほか、中生品種「きぬむすめ」の特別栽培における菜種油粕の施用量の検討、新たな水田除草法(土寄せ除草法)の効果確認、問題病害虫の抑制技術の検討を実施した。 地元企業と連携し、大豆害虫対策として安価な光防除用の緑色LED灯器材の改良を継続して進めるとともに、ハスモンヨトウ等ヤガ類に対する試作器材の防除効果確認試験を場内及び現地ほ場にて実施した。また、野菜等への適用拡大を検討した。そのほか、天敵温存植物利用法及びBT剤散布処理の大豆子実害虫に対する被害抑制効果を予備的に検証した。 田畑輪換による雑草抑制の効果を引き続き検討、また、有機栽培に適した新たな水田転換畑適品目の検索などを実施した。 				
イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<ul style="list-style-type: none"> 特になし 				
ウ 成果				
<ul style="list-style-type: none"> イトミミズがつくる膨軟層の抑草効果を確認し、早期湛水処理によりその効果が高まることが明らかとなった。 県内LED企業との農商工連携により、市販器材よりも低コスト高性能化を図った緑色LED灯器材を開発し、商品化の目処が立った。防除効果については、大豆だけではなく野菜等にも適用拡大を目指して検討したところ、問題害虫であるアワノメイガ、オオタバコガに対しても発生抑制効果を確認した。 他の試験項目に関しても、当初の計画通りほぼ進捗することができた。 				
エ 課題				
<ul style="list-style-type: none"> 気象条件等に左右されやすい有機栽培に関しては、単年度データのみでは、技術の普遍化が十分できない。年次変動や現地ほ場での適応性等を含め、引き続きデータ蓄積を行う必要がある。 イトミミズを利用した抑草対策ではイトミミズ増殖条件解明をさらに進め、技術確立を図る。 緑色LED灯を活用した害虫防除では、適応品目(適応虫種)の拡大を進めるとともに、より効果的な利用方法を解明し、防除技術確立を目指す。 				



7 収入証紙取扱額調べ 該当なし

8 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(平成30年1月31日現在)
(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
	節	細節							
行政財産使用料	行政財産使用料	電柱敷地等	3	35,180	35,180	0	0	鳥取県行政財産使用料	
		職員駐車場	20	417,000	417,000	0	0	"	4月~1月分
		計(節)	23	452,180	452,180	0	0		
		目計	23	452,180	452,180	0	0		
		合計	23	452,180	452,180	0	0		

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

(平成30年1月31日現在)
(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
	節	細節							
財産貸付収入	財産貸付収入	自動販売機設置	1	19,165	19,165	0	0	公有財産事務取扱要領	
		計(節)	1	19,165	19,165	0	0		
		目計	1	19,165	19,165	0	0		
生産物売払収入	生産物売払収入	播種用原種ほか	104	5,848,277	5,842,092	0	6,185	生産品事務取扱要領 (物品規則)	2018/2/1公金振替にて収入済み
		計(節)	104	5,848,277	5,842,092	0	6,185		
		目計	104	5,848,277	5,842,092	0	6,185		
		合計	105	5,867,442	5,861,257	0	6,185		

(5) 諸収入

(平成30年1月31日現在)
(単位:円)

収入科目目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
目	細節							
雑入	預金利息	2	3	3	0	0		
	H28年産米出荷助成金	1	27,216	27,216	0	0		
	自販機電気代	3	16,213	16,213	0	0		
	自販機販売取扱手数料	4	122,413	122,413	0	0		
	鉄屑売り払い	2	54,976	54,976	0	0		
	H28年度普通旅費過払金返納	1	400	400	0	0		
	目計			221,221	221,221	0	0	
合計			221,221	221,221	0	0		

(6) 現金の取扱状況

ア 現金取扱状況

(平成30年1月31日現在)

(単位:円)

収入科目(節)	収入済額(円)	件数(件)	備	考
生産物売払収入	303,820	464	場内販売	
合 計	303,820	464		

イ つり銭の状況

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)

9 収入未済額調べ

該当なし

10 未回収促進のための取り組み状況調べ

該当なし

11 不納欠損額調べ

該当なし

12 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(平成30年1月31日現在)
(単位:円)

予算科目 (目)	予算令達額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月 日	支出金額	支出の根拠法 令 名等(規約、要 綱 等を含む)	備考
(農業試験場費)	175,000	新規該当なし						
新規以外のもの						174,067		
目 計						174,067		
(農作物対策費)	10,000	新規該当なし						
新規以外のもの						10,000		
目 計						10,000		
合 計						184,067		

(2) 補助金

- ① 国補分
- ② 単県分

該当なし
該当なし

(3) 交付金

該当なし

(4)委託料

(平成30年1月31日現在)
(単位:円)

予算科目 (目)	国 庫 単 独 の 別	委託料の名称	委託契約の相手方	当初契約			入札等		完了			支出の状況			備考	
				予定価格	契約年月日		契約期間	年 月 日 (納付等年月日)	契約形態	年 月 日	年 月 日	年 月 日	支出区分	支 出 年 月 日		金 額
					変更契約(最終)	契約年月日										
農業試験場費	単県	平成29年度試験用サンブルの食味官能試験	(一財)日本穀物検定協会	777,600	(H29.12.7) ~ (H30.3.12)	H29.12.7 ~ H30.3.12	H29.11.20 (免除)	随			精算			ID:17-00195718		
農業試験場費	単県	平成29年度LED灯防除試験調査機材の制作委託業務	(株)フジ電機	698,760	(H29.5.2) ~ (H29.12.28)	H29.5.2 ~ H30.2.28	H29.4.24 (免除)	随			精算			ID:17-00019887		
農業試験場費	単県	白米の遊離アミノ酸等の分析	ビューローペリタスジャパン(株)	660,960	(H30.1.22) ~ (H30.3.31)	H30.1.22 ~ H30.3.31	H29.12.7 (免除)	随			精算			ID:17-00231647 新規		
農業試験場費	単県	平成29年度鳥取県産米の食味官能試験(環境)	(一財)日本穀物検定協会	648,000	(H29.11.28) ~ (H30.3.16)	H29.11.28 ~ H30.3.16	H29.11.20 (免除)	随			精算			ID:17-00193543		
農業試験場費	単県	イネいもち病菌のストロピルビン系薬剤耐性遺伝子検査委託料	国立大学法人 鳥取大学	419,995	(H29.9.15) ~ (H29.12.28)	H29.9.15 ~ H29.12.28	H29.9.9 (免除)	随			前金	H29.10.11	419,995	ID:17-00112366 新規		
上記の外、契約額が250万円未満のもの																
目計													1,158,737			
合計													1,578,732			

14. 財産に関する調べ
(1)公有財産
ア 土地

行政・普通財産 の区分	施設名等	所在地	前年度末			本年度異動状況			本年度末			備考	
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	面積(m ²)	価額(円)		
行政財産	農業試験場圃場	鳥取市橋本字原 縄手144-2外	27,011.58	0	増加	H			27,011.58	0			
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字立 石162外	48,552.90	0	増加 減少	H H			48,552.90	0			
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字井 手ノ上206-1	4,986.00	0	増加 減少	H H			4,986.00	0			
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字井 手ノ上	3,619.00	0	増加 減少	H H			3,619.00	0			
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字下 藪江215-1外	6,032.00	0	増加 減少	H H			6,032.00	0			
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字上 藪江220外	5,855.00	0	増加 減少	H H			5,855.00	0			
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字加 源谷225-1外	3,252.82	0	増加 減少	H H			3,252.82	0			
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字 奥ヶ谷224外	19,987.95	0	増加 減少	H H			19,987.95	0			
	計			119,297.25	0			0.00	0.00	119,297.25	0		
	普通財産	なし								0.00	0		
計			0.00	0			0.00	0.00	0.00	0			
合計			119,297.25	0			0.00	0.00	119,297.25	0			

イ 建物

行政・普通財産 の区分	施設名等	所在地	前年度末			本年度異動状況			本年度末			備考
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	面積(m ²)	価額(円)	
行政財産	農業試験場本館	鳥取市橋本	2,423.60	0	増加 減少	H H			2,423.60	0		
	付属棟	"	182.00		増加 減少	H H			182.00	0		
	渡廊下	"	24.00		増加 減少	H H			24.00	0		
	収納舎	"	495.00		増加 減少	H H			495.00	0		
	油倉庫	"	7.70		増加 減少	H H			7.70	0		
	車庫	"	118.67		増加 減少	H H			118.67	0		
	自転車置場	"	27.36		増加 減少	H H			27.36	0		
	土壌調査室	"	43.74		増加 減少	H H			43.74	0		
	土壌殺菌室	"	24.30		増加 減少	H H			24.30	0		
	計			2,423.60	0			0.00	0.00	2,423.60	0	

行政・普通財産 の区分	土地の権利区分	機関名又は施設 名等	所在地	土地の面積等						立木の推定蓄積量		
				前年度末 面積(m ²)	本年度の異動状況		本年度末 面積(m ²)	前年度末 現在高(m)	本年度中 増減高(m)	本年度末 現在高(m)		
					増減別	異動日					面積(m ²)	増減理由
行政財産	県有	農業試験場	鳥取市橋本字 奥ヶ谷291-1外	3,508.95	増加	H		3,508.95			0.00	
					減少	H					0.00	
					増加	H		0.00				
					減少	H						
計				3,508.95			3,508.95	0.00	0.00	0.00		
普通財産	なし				増加	H		0.00			0.00	
					減少	H						
					増加	H		0.00				
					減少	H						
計				0.00			0.00	0.00	0.00	0.00		
合計				3,508.95			3,508.95	0.00	0.00	0.00		

工 動 産 該当なし

才 物 権 該当なし

力 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案件等) 該当なし

(ア) 異動状況

(イ) 出願及び登録の状況

(ウ) 活用の状況

キ 有価証券 該当なし

(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成30年1月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		受入額	払出額		
郵便切手及び 郵便はがき	円 29,974	円 97,540	円 64,385	円 63,129	
収入印紙	1,800	0	0	1,800	
収入証紙		0	0	0	
タクシークー ポン券		0	0	0	
鉄道バスプリ ペードカード		0	0	0	
図書カード	1,000	0	0	1,000	職員が講演した際の主催者からの謝礼
クオカード	2,000	0	0	2,000	職員が外部団体からのアンケートに回答した際の謝礼
合 計	34,774	97,540	64,385	67,929	

イ タクシーチケットの受払状況

該当なし

15 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

ア 地

(平成30年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	住所名	
行政財産	NTT電話柱設置	鳥取市橋本260	電話柱5本 支線1条	H29.4.1	H14.4.1	H29.4.1~H34.3.31	9,000	9,000	鳥取市湯所町2-258	鳥取支店	
	電力柱設置	鳥取市橋本260	電力柱3本 支線1条	H26.3.5	H16.3.31	H26.4.1~H31.3.31	7,480	7,480	鳥取市高栄町117-3	鳥取営業所	
	ソフトバンクモバイル携帯電話基地局	鳥取市橋本奥ケ谷2 59番地9	16.0㎡	H25.3.1	H15.10.24	H25.4.1~H30.3.31	18,700	18,700	東京都港区東新橋1-9-1 ソフトバンクモバイル		
計							35,180				
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								35,180			

イ 建物

(平成30年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	住所名	
行政財産	自動販売機設置	鳥取市橋本260	1.55㎡	H29.4.1	H29.4.1	H29.4.1~H34.3.31	19,165	19,165	米子市両三柳2887-2 ダイドーウエストベンディング(株)		
計								19,165			
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								19,165			

(2) 物品

該当なし

16 借受不動産明細調べ

該当なし

17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ
 (1) 職員住宅
 該当なし

(2) 職員駐車場
 ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	農業試験場(鳥取市橋本260番地)	12.5	1,000
普通財産	該当なし		

イ 異動状況
 (行政財産)

月別	前月末	当月減		当月増		当月末		調定額	減免状況	収入済額	収入未済額
		人	うち減免	人	うち減免	人	うち減免				
4月	40	8	人	8	人	40	人	円	-		
5月	40	0		2		42		42,000	-		
6月	42	0		0		42		42,000	-		
7月	42	0		0		42		42,000	-		
8月	42	0		0		42		42,000	-		
9月	42	0		0		42		42,000	-		
10月	42	0		0		42		42,000	-		
11月	42	0		0		42		42,000	-		
12月	42	0		0		42		42,000	-		
1月	42	1		0		41		41,000	-		
合計								417,000			

18 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

19 備品の処分状況調べ

(平成30年1月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用年数	取得価格	不用決定 年月日	不用とす 理由	売却棄却 の別	処分			備考	
								売却方法・棄却理由	処分年月 日	売却額		処分費用
デジタルビデオカメラ一式	1	H18.12.6	5年	105,525	H29.7.13	使用に耐え ない、今後 の使用なし	棄却	使用に耐え ない、今 後の使用なし	H29.7.14	-	0	
巻取牽引装置	1	S41.10.1	15年	80,000	H29.8.4	修理不能の ため	棄却	修理不能のため	H29.8.4	-	0	
チェーンソー	1	S54.11.26	15年	52,000	H29.8.4	修理不能の ため	棄却	修理不能のため	H29.8.4	-	0	産業廃棄物とし て委託契約内 での処分
ハジトリマー	1	S58.6.24	8年	55,000	H29.8.4	修理不能の ため	棄却	修理不能のため	H29.8.4	-	0	
脱芒機	1	S.56.03.27	5年	75,000	H29.9.13	修理不能の ため	棄却	修理不能のため	H29.9.13	-	0	
播種機	1	S61.7.10	5年	62,300	H29.9.15	装着でき る機械が ないため	棄却	装着できる機械が なく、今後の使用 なし	H29.9.15	-	0	
合計	6			429,825						-	0	

20 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ
(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

該当なし

(2) 物品の照合

照合年月日	現物確認できなかった物品	現物が確認できなかった物品名	個数
平成29年6月26日 ～ 平成29年7月28日	・ 有 ・ 無		

2.1 事業別予算執行状況調べ

目 名	一般管理費	(平成30年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
赴任旅費	異動者の赴任に係る旅費(対象者1名)	

目 名	財産管理費	(平成30年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
県有施設営繕事業	県有施設(農業試験場)3箇所を修繕	

目 名	農業総務費	(平成30年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
先端的農林水産試験研究推進強化事業	H30試験設計意見交換会構成員及びH29水田転作野菜研究会構成員の特別旅費	
農林水産総務課管理運営費	派遣職員に係る普通旅費及び新任職員宿泊研修に係る報償費	
農林水産試験場臨時的調査研究事業	「水稻新品種のブランド化のための先進地調査」ほか7事業に係る普通旅費、役務費、需用費(消耗品費)、委託料	

目 名	農業改良普及費	(平成30年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
普及職員研修費	普及指導員資格試験受験に係る普通旅費	

目 名 農作物対策費		(平成30年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
生産振興推進事業	花壇設置(花苗等購入)に要する経費	
有機・特別栽培農産物等総合支援事業	日本有機農業学会に係る年会費(負担金)	

目 名 農地総務費		(平成30年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
環境保全型農業直接支払対策事業	事業に係る消耗品費	

目 名 土地改良費		(平成30年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
農地法面管理省力化支援事業	事業に係る消耗品費	

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数 (日)	燃料		修繕費等 (円)	左の主な内容	備考
					消費量 (L)	金額 (円)			
トラクター	キセキ NT43FFUG CY	H25.6.28	耕地整地、 代かき	69	797	99,811	203,580	タイヤ交換、ロータ リー修理	
トラクター	クボタ ZL1-33	S61.5.7	"	20	127	15,855	5,832	燃料エレメント交換	
トラクター	ヤンマー FX435	H4.5.15	"	10	60	7,700	194,292	タービン等交換	
トラクター	クボタ GL367QBS MAP	H10.4.27	"	49	424	52,881	12,452	燃料エレメント交換	
種子用コンバ イン	ヤンマー CA135PT	H3.9.30	稲刈り	1	10	1,230	201,949	クローラー取り替え修 理	
コンバイン	三菱 MC405DGCLM	H9.9.22	"	7	82	10,180	1,750	ベルト交換	
コンバイン	ヤンマー GC 219	H17.6.30	"	7	90	11,220	2,203	燃料エレメント交換	
コンバイン	ヤンマー AE330 XJU	H23.8.31	"	14	165	20,680	23,944	ガイド、リンクピン修 理	
種子用ハーベ スタ	ヤンマー PKD600T	H1.9.5	"	2	3	377			
種子用ハーベ スタ	ヤンマー PKD600T	H4.3.10	"	1	1	123	19,440	ベルト等交換	
テラー	ヤンマー YT-400	H4.5.29	収穫物等運 搬	15	17	2,091	19,732	ロータリーのオイル漏 れ修繕	
テラー	クボタ TD 700	H18.5.8	"	14	4	492			
動力運搬車	CG191SLD-EW	H17.5.2	"	61	54	6,529	2,851	アクセルワイヤー修理	
動力運搬車	築水キャニコムELL80 1KZPW	H9.10.1	"	94	69	8,707	91,443	タイヤ修繕	
小型特殊自動 車	ロードガロ SL620JBA	H27.7.23	"	89	54	6,631	44,550	クラッチ、ミラー修繕	
耕うん機	ヤンマー YS-80	S57.11.30	耕地碎土、 畦立	1	0	0			
耕うん機	クボタ TRS70-US	H28.7.25	"	9	8	990			
管理機	ヤンマー ST-512	H1.9.25	除草土寄、 畦立	0	0	0			
管理機	ヤンマー HK80XL	H20.6.16	"	8	11	1,433			
管理機	エースローターIKSAR600	H3.7.9	"	4	2	255			
ネギ用管理機	ヤンマー NK7X M3	H11.4.23	"	12	18	2,339			
管理機	ヤンマー RK750	H28.1.29	"	8	13	1,711			
乗用管理機	ヤンマー A-10GH	H24.1.18	"	9	41	5,292	23,112	ケースCMP交換	
田植機	イセキ PC-S270	H14.4.30	田植	8	13	1,727			
田植機	クボタ SP-2HDSF	H9.5.20	"	0	0	0			
乗用田植機	イセキ PM40D-DCUW	H7.5.8	"	4	9	1,190	98,280	ホイール修理	
乗用田植機	イセキ PQ4 さなえ	H15.5.16	"	10	20	2,630	125,723	ベルト、モーター等修 理	
乗用田植機	クボタ NSU67-SP 2. SJ-6N	H23.5.23	"	11	32	4,143	15,000	バッテリー	
バインダー	BE-50A	H17.7.29	稲、麦刈	11	7	921	15,023	部品交換	
バインダー	ヤンマー YB 65	H1.9.18	"	1	1	134			
バインダー	ヤンマー YB-50	H4.2.25	"	1	1	127			
大豆収穫機	ヤンマー CS21(D)	H6.11.18	大豆刈取	7	53	6,818	78,969	コントローラー整備、 テンションボルト修理	
不耕起播種機	みのる PFT-6-1	H8.10.1	乾田直播用 播種	0	0	0			
フォークリフ ト	小松 FG09-2	H9.10.16	収穫物等運 搬	80	130	16,914	110,760	点検及び部品交換	
歩行型マル チャー	ヤンマー PRT851 F-RB40ABD	H9.7.15	耕うん、畝 立、マルチ	0	0	0			
大豆脱粒機	PBT610	H16.3.23	大豆脱穀機	3	4	536			
シリンダカッ ター	CX-201S	H17.9.30	薬用カッ ター	4	1	131	76,324	ベルト、ローラ等整備	
自走式動噴	VSC457F-10	H27.1.16	作物防除	17	23	2,987			
合 計				661	2,344	294,785	1,367,209		

2.3 生産物(品)に関する調べ

(平成30年1月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積(a)	生産計画数量(kg)	生産数量			場内使用(kg)	処分量						分類換	差引残(kg)	備考	
				前年度からの繰越(kg)	生産購入(kg)	計(kg)		売却		目的外使用		廃棄(kg)	乾燥減				
								数量(kg)	金額(円)	数量(kg)	金額(円)		数量(kg)				金額(円)
水稻	原種	253	6,325	5,222.8	0.0	5,222.8	205.0	90.0	46,105				173.0	4754.8	分類換については経年経過の為		
	一般玄米	329	12,330	0.0	21,870.0	21,870.0	180.0	21,690.0	3,696,250					0.0			
麦類	原種	20	300	451.2	506.0	957.2	20.0	400.0	128,736					537.2			
	一般																
大豆	原種	122	3,660	944.0	876.0	1,820.0	111.0	932.0	599,909					777.0			
	一般	64	640	0.0	536.0	536.0	0.0	536.0						0.0			
	小計								33,912						H28出荷		
									113,400						H26出荷 最終精算		
									5,321,592								
野菜	ブロッコリー	2	150	0	118.0	118.0	0	118.0	35,400						数量単位: 60円/200g/個		
	アスパラ	1.4	70	0	89.0	89.0	0	89.0	111,200						数量単位: 100円/80g/束		
	白ネギ(頭取)	0.5	120	0	155.1	155.1	0	155.1	46,530						数量単位: 90円/300g/束		
	白ネギ(頭取)	1	270	0	265.5	265.5	0	265.5	88,500						数量単位: 100円/300g/束		
	白ネギ(束付き)	6	1,800	0	1570.0	1,570.0	0	1505.0	150,500						数量単位: 100円/1kg/束		
	ナス	6.0	180	0	175.0	175.0	0	175.0	42,000						数量単位: 120円/500g/袋		
	トマト	8	40	0	38.0	38.0	0	38.0	6,840						数量単位: 90円/500g/袋		
	スライトコーン	10	30	0	32.0	32.0	0	32.0	4,480						数量単位: 70円/500g/袋		
	甘長とうがらし	4	50	0	54.0	54.0	0	54.0	18,900						数量単位: 70円/200g/袋		
	しょうが	10	30	0	26.5	26.5	0	26.5	10,070						数量単位: 190円/500g/袋		
大根	3	30	0	34.0	34.0	0	26.0	2,600						数量単位: 50円/袋			
サトイモ	3	30	0	29	29	0	29	3,480						数量単位: 60円/500g/袋			
	小計								520,500								
	合計								5,842,092								

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成30年1月31日現在)

1

事業名	水稲新品種育成試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S43年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(2,373,000円) 899,721円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 県の顔となるような水稲新品種の育成	場内 鳥取市 八頭町 智頭町 日南町	初期世代 20a 生産力検 定 26a 現地試験 40a	鳥取県における水稲の各栽培地帯及び栽培体系に適応する優良品種を育成する。	(成果) 6 主な事業に関する調べに記載
				(課題) 6 主な事業に関する調べに記載

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成30年1月31日現在)

2

事業名	奨励品種等選定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,701,000円) 834,340円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 10ヶ所	40a 37系統・品種 各10a 早生粳 7ヶ所各1系統 極早生糯 1ヶ所2系統 中生糯1品種	本県で普及奨励する水稲の優良品種を選定するため、鳥取農試、国立研究開発法人、公立試(福井県農業試験場ほか6機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 1系統をやや有望、1系統を有望、9系統を継続とし、17系統を打ち切りとした。 (2)本調査 1系統をやや有望、1系統を有望、2系統を継続とし、1系統を打ちきりとした。 (3)現地調査 本調査と同様の4系統を早生から中生まで供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
				(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
2.麦類 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 1ヶ所	10a 二条大麦 2系統 10a 二条大麦 1品種	本県で普及奨励する麦類の優良品種を選定するため、ビール麦主産地の育成県(福岡・栃木)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 二条大麦は1系統を打ち切り、1系統を継続とした。 (2)本調査 二条大麦の1品種を有望とした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
				(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
3.大豆 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査を行い供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 4ヶ所	15a 7系統 各10a 早生 4ヶ所各1系統	本県で普及奨励する大豆の優良品種を選定するため、国立研究開発法人(次世代作物開発研究センターほか3機関)、公立試(長野県農業試験場)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 1系統を継続とし、5系統を打ち切りとした。 (2)本調査 1系統を有望とした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定活用した。
				(課題) 新規系統を含め、本県において栽培に適した優良品種を選定

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成30年1月31日現在)

3

事業名	新品種栽培マニュアル策定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H4年度(水稲・大豆)、H15年度(麦類) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,429,000円) 740,792円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単) 奨励品種への採用が見込まれる水稲・大豆・麦類品種・系統について、円滑な普及と導入農家における生産安定を図るため、特性を活かした栽培法を確立する。 また、奨励品種採用後に明らかになった栽培上の問題点についても技術対策を策定する。</p>	場内	20a 1品種	水稲 酒造適性に優れる「鳥系酒105号」の栽植密度の違いによる生育、収量、品質等への影響を明らかにする。	(成果) 水稲 「鳥系酒105号」は、栽植密度45株/m ² においても実用上十分な収量、品質を得られ、疎植適性があることがわかった。穂肥の時期は幼穂長3mm時が良いと考えられた。
	場内	3a 2品種	大麦 「しゅんれい」の出穂期予測を継続するとともに、有望品種「アスカゴールデン」の生育データを蓄積する。	大麦 葉耳間長によって実用的な出穂期予測が可能で、データ蓄積により精度が向上した。予測情報は現地に情報提供し、活用された。
	場内	1a 3系統	大豆 早生有望系統「東山228号」の早播適性の把握	大豆 早播すると収量がやや低下するが、早播しても倒伏は大きくなく、標播同様収穫機械適性はあると考えられた。
<p>水稲主要品種における生育データの集積・解析と情報提供</p>	<p>場内 県内現地 14カ所</p>	<p>場内7a 坪刈2地点 /箇所</p>	<p>「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「きぬむすめ」の生育データの集積するとともに、それらの生育情報について随時現地に提供を行う。</p>	(成果) 生育推移や収量等のデータを集積した。生育状況及び幼穂形成期等の予想日について「稲作技術情報」やHP等を通じて関係機関に情報提供した。
				(課題) データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

4

(平成30年1月31日現在)

事業名	きぬむすめの等級・食味の高位安定化栽培技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H27年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(1,937,000円) 982,548円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 本研究では「きぬむすめ」の市場評価の維持・向上による生産者の所得向上を図るため、等級・食味の高位安定化栽培技術の構築を目指す。	県内きぬむすめ栽培ほ場(延べ数) 場内 鳥取 岩美 湯梨浜 三朝 北栄 琴浦 大山	3ヶ所 1ヶ所 1ヶ所 2ヶ所 3ヶ所 1ヶ所 1ヶ所 3ヶ所	6 主な事業に関する調べに記載	(成果) 6 主な事業に関する調べに記載
				(課題) 6 主な事業に関する調べに記載

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

5

(平成30年1月31日現在)

事業名	主要農作物原採種事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稻)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,666,000円) 1,071,203円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 水稻の原原種の採種	場内	0.9a	水稻原原種の選抜、維持。	(成果) 「鳥系93号」3系統の選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
2. 水稻原種の採種	場内	85a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「鳥系93号」、「コシヒカリ」、「強力2号」、「ハクトモチ」について採種を行った。 (課題) 特になし。
3. 大豆の原原種の採種	場内	9.3.a	大豆原原種の選抜、採種。	(成果) 「サチユタカ」28系統、「緑だんだん」22系統「鳥取大山2001」34系統、「三朝神倉」24系統について、選抜、採種を行った。 (課題) ウイルス病の発生によって、採種系統数が減少する品種があるため、防除対策の検討が必要。
4. 大豆原種の採種	場内・現地	134a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「サチユタカ」、「緑だんだん」、「鳥取大山2001」、「三朝神倉」について採種を行った。 (課題) 特になし。
5. 麦の原原種の採種	場内	3.0a	大麦原原種の選抜、採種。	(成果) 「しゅんれい」30系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
6. 麦原種の採種	場内・現地	41a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「しゅんれい」について採種を行った。 (課題) 特になし。

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成30年1月31日現在)

6

事業名	担い手の収益性を実現する 超省力水稻栽培の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H 年度 ～ H 年度		(予算額) 支出済額	(2,465,000円) 2,085,532円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1. 催芽籾湛水直播栽培の技術確立	場内 現地ほ場	20a 30a	湛水直播栽培のさらなる省力・低コスト化を図るため、催芽籾湛水散播栽培法の技術を確立する	(成果) 播種3週間後の芽干し、慣行より強めの中干しの実施により、倒伏軽減と安定的な収量品質の確保が可能であった。 (課題) 施肥、除草の省力化。
2. 高密度育苗栽培の技術確立	場内	17a	高密度苗の適正な育苗日数、疎植栽培との組み合わせ、慣行田植機での移植精度等の検討を行い、超省力栽培技術構築の資とする	(成果) 高密度苗の特徴と適正な育苗日数の把握ができた。 (課題) 収量性については、引き続き試験を行う。
3. 収量・品質の高位安定化に向けた可変施肥技術の確立	場内 現地ほ場	10a 70a	・現地で簡単に使用できる携帯型生育量装置による水稻生育診断技術を開発する ・ほ場の地力や生育状況に応じた精密なスマート農機体系における増収、高位平準化効果、経済性を評価し、超省力栽培技術構築の資とする。	(成果) ・生育量測定装置の測定値と草丈、窒素吸収量との間に高い関係があることを明らかにした。 ・現地ほ場においてスマート農機(可変施肥田植機および可変施肥兼用管理機)の活用によりほ場内の生育収量のばらつきがちいさくなることを確認した。 (課題) スマート農機体系の経済性評価

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

7

(平成30年1月31日現在)

事業名	水田営農の収益性を向上させる経営改善手法の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H27年度 ~ H29年度		(予算額)	(703,000円)
			支出済額	517,479円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.収益性が向上する経営モデルの作成	県内現地	11経営体	<ul style="list-style-type: none"> ・優良経営体からの経営に関する聞き取り調査を行い、集計する。 ・ICTを利用した生産管理システムの情報収集と県内水田経営作において利用実態調査を行う。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内優良経営体の経営調査をもとに、水田営農における部門別および複合経営モデルを作成した。 ・各種生産管理システムの概要一覧表を作成した。県内利用実態調査からは、システム導入のメリット、デメリットが把握できた。結果は、研修会等の資料として利用。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落営農および中山間地に特化したモデルの作成

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

8 (平成30年 1月31日現在)

事業名	有機栽培「トレジャー技術」を協働で発掘・解析・検証拡大する事業		担当室別	有機・特別栽培研究室 環境研究室	
実施計画期間	H26年度 ～		(予算額)	(2,211,000円)	
			支出済額	1,088,504円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
(単) 1. 有機栽培現地実践ほ場の調査・検証(概要調査) 1) 水稲作	鳥取市 北栄町	有機栽培 水稲ほ場 2グループ 4ほ場	水稲有機栽培実践農業者を対象に、水稲事例の実態を調査。 生育収量等のデータ蓄積と解析、問題点の抽出、技術的なサポート等を行う。	(成果) 篤農技術とおもわれる木村式自然農法、土寄せ除草法の実態調査を行い、データの蓄積し、技術を解析中。 (課題) 引き続き、データの蓄積を進め、技術を現場フィードバックできるよう解析を進める。	
2) 畑作(大豆、らっきょう、ニンジン)	南部町 鳥取市 北栄町	有機栽培 大豆ほ場 2グループ 13ほ場 らっきょうほ場 2グループ 2ほ場 ニンジンほ場 1グループ 1ほ場	野菜有機栽培実践農業者を対象に、畑作物3事例(大豆・ラッキョウ、ニンジン)の実態を調査。 生育収量等のデータ蓄積と解析、問題点の抽出、技術的なサポート等を行う。	(成果) 大豆では、雑草対策として田畑輪換の雑草抑制効果を確認した。新たに問題となりつつあるマメシクイガの食害実態を解明し、が明らかとなった。また、らっきょうでは秋増肥による増収効果および蒸気除草法による除草効果程度を明らかにした。ニンジン露地栽培の雑草対策としての太陽熱利用土壌消毒法の適応性の検討を開始し、露地でも効果があることを確認した。 (課題) データ蓄積および解析を図るため、次年度も引き続き大豆、らっきょう、畑地雑草対策(ニンジン)とも調査を行う。	
(単) 2. 先進的な水稲有機栽培技術の科学的解明(詳細調査)	鳥取市	有機栽培 水稲ほ場 1グループ 6ほ場	前事業の3カ年の現地調査で抽出された優良農家(1事例)を対象として、雑草対策技術のメカニズム並びに環境要因(土壌条件等)が生育収量に与える影響を解析する。	(成果) 土壌の硬さと除草効果との関係について、重点的に調査し、解析を進めている。 (課題) 土壌硬度と除草効率との関係についての詳細調査を継続し、データの蓄積・解析をさらに進め、効率的な除草方法の確立に発展させる。	
(単) 3. 水稲の有機栽培体系化技術の実証展示	場内 八頭町	13a 23a	農業試験場が確立・体系化した技術等をモデル的に場内及び現地ほ場で実証展示すると共に、現地での適応性を確認する。	(成果) 現場の除草技術の問題点を場内ほ場で改善実証した。また、雑草発生量が甚大な現地ほ場で、除草技術の改善・実証を行った結果、農家慣行の栽培法よりも雑草繁茂を低く抑え、除草技術を実証できた。 (課題) 生産者の指向する農法にさらに近づけた技術にアレンジする必要がある。	
(単) 4. 「鳥取県有機農業推進ネットワーク」との連携	室内		当団体で有機農業者相互の情報交換・研鑽が円滑に実施されるべく協力する。	(成果) 「鳥取県有機農業推進ネットワーク」の活動について、サポートを行った。 (課題) 活動が円滑に進むよう、引き続き支援を行う。	

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成30年1月31日現在)

9

事業名	「ゆうきの玉手箱(忒の重)」技術確立☆チャレンジ編		担当室別	有機・特別栽培研究室、作物研究室、環境研究室	
実施計画期間	H25年度 ～H29年度		(予算額)	(2,661,000円)	
			支出済額	1,457,051円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
(単) 1. 水稲有機栽培における適性の高い品種の探索、除草方法並びに病害虫の抑制技術の検討	場内	場内 4ほ場	6 主な事業に関する調べに記載		
(単) 2. 大豆有機栽培における栽培法確立並びに病害虫対策の検討	場内	場内 2ほ場			
(単) 3. 転換畑における有機栽培適品目選定、病害虫回避、輪作による雑草抑制、地力回復等の効果検討	場内 八頭町 伯耆町	場内 3ほ場 現地 3ほ場			

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

10

(平成30年1月31日現在)

事業名	水稲・麦・大豆の高品質・安定生産を 目指した病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H27年度～		(予算額) 支出済額	(3,004,000円) 2,450,044円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単・委)</p> <p>鳥取県の水稲・麦・大豆栽培において被害につながる病害虫を対象に、本県に最も適した効率的防除法および省力防除法を確立し、</p> <p>(1) 安定生産および高品質化、(2) 防除の省力・低コスト化、</p> <p>(3) 人と環境にやさしい農業の推進を図る。</p>	<p>場内</p> <p>鳥取市</p> <p>智頭町</p> <p>湯梨浜町</p> <p>三朝町</p> <p>江府町</p>	<p>30a</p> <p>20a</p> <p>20a</p> <p>20a</p> <p>10a</p> <p>20a</p>	<p>1 水稲の種子伝染性病害（イネもみ枯細菌病）の防除対策の確立</p> <p>※各種防除資材の効果検討に必要な罹病種子の作製</p> <p>2 水稲中生品種における病害虫防除体系の確立</p> <p>※「きぬむすめ」（高品質米の安定生産を目指す）</p> <p>※飼料米用「日本晴」（低コスト化を目指す）</p> <p>3 イネいもち病の薬剤耐性菌発生下における防除技術の確立</p> <p>※苗いもちの効率的防除体系の検討</p> <p>※新規剤の効果と実用性確認</p> <p>4 ダイズにおける病害虫防除技術の確立</p> <p>※ダイズ害虫マメシクイガに対する効率的防除技術の確立</p> <p>5 生産安定のための水稲省力防除技術の確立</p> <p>※イネ苗立枯病、イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）、水稲湛水直播栽培における病害虫防除、イネゴ類</p>	<p>(成果)</p> <p>1 水稲の種子伝染性病害罹病種子を作製し、試験に必要な病原性を確認。</p> <p>2 水稲中生品種における病害虫防除体系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いもち病、紋枯病、ウンカ類について、育苗箱施用剤（新規剤、既存剤）の防除効果を確認。 <p>3 イネいもち病（薬剤耐性菌）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗いもちに対するケイ酸資材の防除効果、葉いもちに対する新規剤の防除効果を確認。 <p>4 ダイズ病害虫（マメシクイガ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによって、発生消長と発生盛期を解明。 ・薬剤の防除効果と散布適期を把握（H29成果情報化）。 <p>5 省力防除技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネ苗立枯病：新規剤の防除効果を確認。 ・イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）：ヒメトビウンカおよび縞葉枯病に対する既存剤および新規剤の防除効果を確認（一部をH29成果情報化）。 ・水稲湛水直播栽培での防除：薬剤の種子塗沫および薬剤の土中施用の防除効果を確認。 ・イナゴ類：常発地において育苗箱施用剤の防除効果を確認。

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

11

(平成30年1月31日現在)

事業名	新農薬の適用に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S46年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(570,000円) 342,351円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 本県の普通作物病害虫に適した新規の防除薬剤の選択および登録促進を目的として、日本植物防疫協会から受託し、効果を確認するとともに、本県の防除対策に資する。	場内 鳥取市 智頭町 八頭町	40a 20a 20a 20a	殺菌剤およびその混合剤7剤、殺虫剤およびその混合剤11剤、計18剤の防除効果ならびに殺菌剤2剤の倍量薬害の有無を検討する。	(成果) ○新規薬剤の防除効果は、判定基準A(実用性が高い)8剤、B(実用性がある)3剤、C(効果は低い実用性あり)4剤、D(実用性低い)は3剤であった。 ○新規薬剤2剤の倍量薬害は認められなかった。
				(課題) なし

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

12

(平成30年1月31日現在)

事業名	水稲大豆等新除草剤適用性試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(654,000円) 283,811円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 1.水稲新除草剤試験	場内	10a	水稲用新除草剤の本県への適応性検討。	(成果) 5剤について実用可能と判定した。 (課題) 難防除雑草に有効な新除草剤の探索。
2.効果の高い除草剤使用方	—	—	本年度対象薬剤なし。	(成果) なし。 (課題) 直播向け除草剤の検討。

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

13

(平成30年1月31日現在)

事業名	食のみやこブランドを支える特産豆類の生産性向上試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H27年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(380,000円) 245,845円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1.大豆剪葉摘心の処理時期と処理高さの検討	場内	16a	本県育成地大豆3品種における剪葉摘心処理の時期および高さの検討	(成果) 「緑だんだん」は、剪葉摘心によって節数及び着莢数が増加する傾向にあり、やや増収し粒大、品質および成分は維持された。 (課題) 特になし。
2.密播無培土栽培と剪葉摘心処理の組合せによる生産性向上	現地ほ場	80a (大山町2箇所、三朝町2箇所)	地大豆品種の密播無培土栽培体系における剪葉摘心処理効果の検討	(成果) 現地主産地のほ場において、密播無培土体系でも分枝節が発達し、倒伏を抑制しながら着莢が確保できた。 (課題) 特になし。
3.小豆における無培土密播栽培の確立	—	—	平成28年度で完了済。	(成果) 大納言小豆、小粒白小豆とも、密播無培土栽培によって、慣行培土栽培と同等以上の収量を確保できた。 (課題) 成果情報化し小豆についての課題は28年度で完了済。

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

14

(平成30年1月31日現在)

事業名	転作野菜の導入を促進する排水等対策技術の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H28年度 ～ H32年度		(予算額)	(990,000円)
			支出済額	643,954円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.ほ場条件に応じた排水対策の選定手法の確立	県内現地 水田転作野菜ほ場	5か所	排水対策の選定に必要な着眼点を整理するため、現地ほ場の排水不良要因を把握する	(成果) 調査した圃場の排水不良要因を把握し、それぞれ必要な対策を考察した。聞き取り調査により排水対策の有効性を確認した。 (課題) 広範囲のほ場条件での調査、診断、分類
2.作物の能力を利用した排水対策	場内	14a	大豆・トウモロコシ跡作の排水改善効果など、作物の能力を最大限活用することで有利な作付け体系の構築を目指す。	(成果) トウモロコシ跡は水浸入量の向上、土壤水分の低下、畝間の排水性向上、土寄せ時の通路の削り取り量が多くなる効果があり、白ネギの作業性が高まると考えられた。大豆跡は畝部の土壤乾燥が早かった。 (課題) 各作付けによる土壤物理性変化の調査
3.転作ほ場に適したアスパラガス栽培法の確立	場内	2a	初期数年間の収量を増加させ早期に成園並の収量を確保する栽培法として密植栽培を検討する。 また、高収量・品質が期待できる品種の選定を目指す。	(成果) 栽植密度2倍で栽培を行ったところ、収量が1.5倍の増収となった。また、新品種ゼンユウガリバーは太物率が高く、収量が高く、有望品種であった。 (課題) 3年目以降の収穫調査
4.ブロッコリーの耐湿性品種選定	場内	4a	耐湿性および品質・収量面で有望な10～11月穫り品種の品種を選定する。	(成果) ほ場湛水試験を行い、耐湿性および収量品質面からサマードーム、グランドーム、SK9-099を選定した。 (課題) 慣行品種以外の優良系統の選定
5.弾丸暗渠の処理方法と排水対策の関係	場内 県内実演圃場	20a 2か所	瓦の破砕材を弾丸暗渠の疎水材として充填した時の排水効果持続性と作業性を検討する。	(成果) 瓦破砕材充填の弾丸暗渠処理は排水効果の持続性があった。 (課題) 大がかりな作業性
6.水田用機械を利用した作業体系の開発	県内調査	2か所	作業能率の高い水田用機械を転作導入により、能率の高い作業体系を開発する。	(成果) ブームスプレーヤーによる白ネギ防除、溝掘機による白ネギ収穫前の畝崩しについて県内事例収集をした。 (課題) 先進地域の事例収集

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

15

(平成30年1月31日現在)

事業名	水田転換畑における自給飼料の安定生産技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H26年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(1,987,000円) 1,400,999円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 水田転換畑における飼料用 作の施肥改善 および排水対 策等について 検討し、安定 生産技術の確 立を図る。	場内 鳥取	1ヶ所 4ヶ所	飼料用トウモロコシの高 位安定化を図るため、効率 的な施肥管理の検討および 排水対策による収量向上の 実証を行う。	(成果) 飼料用トウモロコシ栽培において、窒素、 リン酸の適正施肥量の把握、土壌中のリン酸 含量に応じたリン酸減肥について明らかにし た(H29成果情報作成予定)。 (課題) なし

2.4 試験研究調査事業別実施状況調べ

16

(平成30年1月31日現在)

事業名	土壌保全対策技術確立事業		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S54年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,033,000円) 751,594円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) ＜農地管理実態調査＞ 地球温暖化防止と土壌肥沃度の変化を把握するため、農地に蓄積している炭素・窒素の量とその変化についての調査を行う。	県内14ヶ所の水田、畑、草地 (場内12、日野1、南部1)	土壌理化学性調査、断面調査、 (18項目)、アンケート調査	適切な土壌管理法の確立にむけた土壌中の炭素、窒素量とその変動を把握する。	(成果) 計画通り調査を実施。 (課題) なし
(単) ＜土壌機能モニタリング調査＞ 県内耕地土壌の実態調査を行い、土壌管理や土壌改良のための基礎資料とする。	県内5ヶ所の水田、畑 (八頭1、用瀬1、江府1、南部1、日野1)	土壌理化学性調査、断面調査、 (36項目)、アンケート調査	本年度の調査の実施と過去データの整理を行う。	(成果) 計画通り調査を実施。 (課題) なし

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等

なし

(2) 監査委員事務局に対する要望等

なし
